

めあて

筆者の表現や構成の工夫を読み取ろう。

書きだし

「はっけよい、のこった。」

効果

いきなり絵の中に入ったような感じ。絵の中のものが、今、動いているような感じ。

文末表現

「……返し技。」
「……野ウサギ。」

効果

歯切れがよい
本当に動いているような感じ

「……いる。」
「……する。」

今、そこで見ているような感じ

「……してごらん。」
「……しただろう。」
「……わかるね。」

読み手を引きこむような感じ
話しかけるような感じ

構成
(絵の出し方)

効果

部分 ← 部分
全体 ←

つながっている絵を分けて出すことで読み手に時間の経過を意識させる。

その他の工夫

「まるで〜のよう」
↓イメージが広がる。
「〜ちがいない」
「〜としか思えない」
↓想像や考えを伝える。

【4 / 9時間目 指導略案】 使用するワークシート『鳥獣戯画』を読む③
本時のねらい

筆者の表現や構成の工夫を、既習の説明文と比較しながら読み取らせる。

1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。

○ どんな「読み取ったことや感じたことを表す表現」を使って評価したのか、前時での学習を振り返らせた後、他にも筆者が工夫していることはないか投げ掛け、めあてにつなげる。

2 表現の工夫として、「書き出し」「文末表現」に着目させ、どのような効果があるか考え、ワークシートに書く。

○ 書き出しや文末表現には、どんな工夫があるのか、既習教材の「生きものはつながらの中に」の表現と比較して考えさせる。

※ 「生きものはつながらの中に」の文章を提示して比較させると想起しやすくなります。

・ 「返し技」「野ウサギ。」のように体言止めになっている。↓歯切れがよい文章。
・ 今、見ているように書いている。↓絵の中のものが、今、動いているように感じる。
・ 話し掛けるように書いている。↓おもしろい。楽しい。どんどん読み進められる。

3 構成の工夫(絵の提示の仕方の工夫)とその効果について考え、ワークシートに書く。
○ 本来はつながっている絵をページごとに分けて提示した理由と、後半では、再度つないで提示した理由を考えさせ、全体で話し合う。

4 その他の筆者の工夫を探して、気付いたことをワークシートに書く。また、そのような表現や構成をすることで、文章全体にどんな効果があるのかということも考える。

・ 「まるで〜のようだ」↓分かりやすく、イメージが広がる
・ 「〜ちがいない」「〜としか思えない」↓想像や考えを伝える など

※ 『鳥獣戯画』を読むの教材文が、全体的に読み手を絵や文章に引きつける内容になっていることに気付かせます。

評価 筆者の表現や構成の工夫を読み取っている。 (読む)

文章表現に着目し、語句と語句の関係を捉えている。 (言イ(オ))

5 本時の振り返りをして次時の学習を確認する。

○ 次時は、自分で絵を評価することを知らせる。